

(財)日本塗料検査協会理事
市立前橋工科大学大学院教授
櫻野紀元

漆器や陶器、染色の技術は、既に縄文時代に、その基礎が築かれていました。それぞれのデザインや色彩には普遍性があり、長い年月を経ても飽きることがありません。そしてそれらは、概して、長期間の使用が可能です。漆には抗菌効果があるので、漆器に入れた食べ物は傷みが遅いといえます。

木材の切り方や使い方も縄文時代、人々はほぼ習熟していました。その頃は、木を細かく切り刻んで加工するための金属製の道具はありませんでしたから、荒削りな木材で小屋組みし、厚い板を造作に用いていました。

冶金技術は、古墳時代にその基礎が確立し体系化されました。その後、技術が進んで木を薄く切る加工道具が作られ、薄板によるさまざまな部材や家具が作られるようになりました。

乾燥に伴う収縮など、木の性質を熟知した人々が造る木工製品をはじめ、木造建築物や木製家具は狂いが無くしっかりしていて、長期間の使用が可能です。

こうした技術は、人々のたゆまぬ創意工夫と、長い年数におよぶ試行錯誤によって生み出されました。

さて、「気」は天地を満たすエネルギーです。「気」は宇宙にみなぎる、星々を動かす大きなエネルギーです。地球に生息する私たちは、その「気」を取り込んで生命体を維持し、活動しているのです。

ところで、人の手が多く投入されるほど、作られたものに多くの「気」が込められる、といえます。

熟慮に熟慮を重ね、念入りに作られるものには、多くの「気」が込められるのです。

このことは、古今東西の思想家をはじめ科学技術者たちによって解説されています。サイコ・サイバネティクス（心理学や脳の生理機能と制御工学とを総合した新しい学問体系）の分野では、これが主要な研究の対象になっています。

わが国の伝統的な技術は、人々の巧みな「気」の取り込みによって開拓され創られた、と考えられます。そして今日の先進技術のものは、その伝統的な技術の中に見ることが出来ます。

例えば今日、建築の分野における免震や制震技術、超高層建築を可能とする柔構造技術のものは、伝統的な木造建築物にあります。ニューセラミックス技術のものは、何千年もかかって培われた陶器や磁器の技術にあります。超合金や金属表面をミクロン単位で平滑に仕上げる技術のものは、伝統的な冶金や金属加工技術にあります。

これまでの優れた日本の技術と、それを培ってきた日本人の「気」は、今後とも世界を支える技術を生み出すもと、になると思います。

